

余市町地域安全克雪方針策定事業について

令和5年2月28日

令和4年度 雪国の安全・安心な地域づくりを考える活動報告会

北海道余市町・大平 直規（余市町総務部地域協働推進課 主幹）
（代理発表：小西 信義）

1. 地域の現況

《余市町の気候》

- 日本海型気候
- 降水量は1,300mm程度、年平均気温は8.3℃
- 最深積雪の平年値（1991～2020年）は、2月で128cm

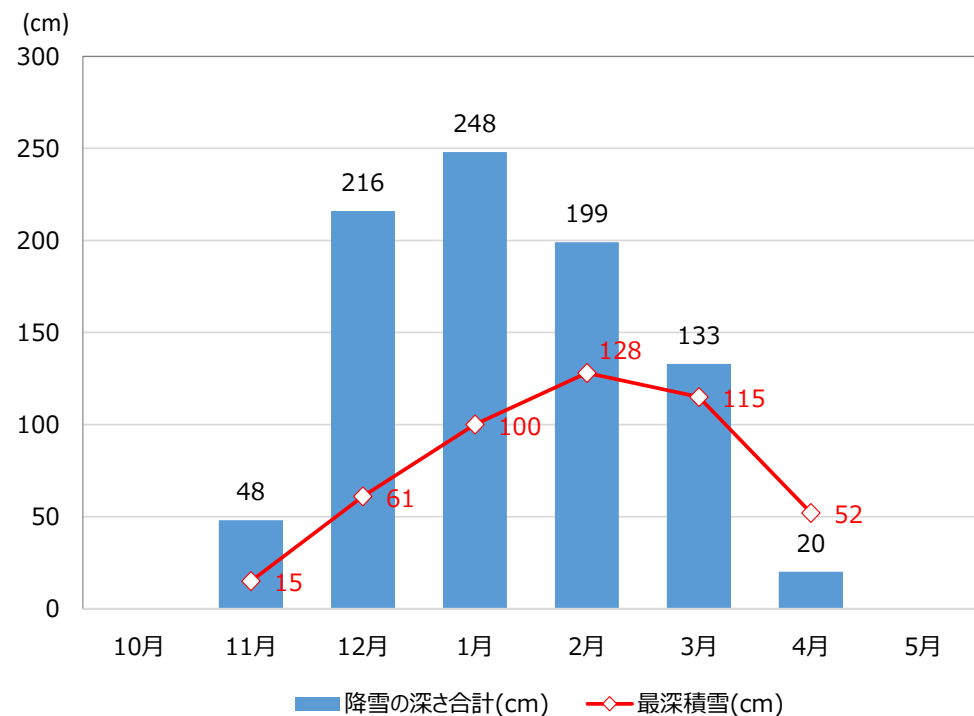


図 4 余市町の降雪の深さ、最深積雪
(1991～2020年の平年値)

《余市町の紹介》

- 北海道の西部、積丹半島の東の付け根に位置する、人口約1.8万人の町
- 高齢化率は、40.87%（令和4年）
- 町の北側は日本海に面し、他の三方はゆるやかな丘陵地
- 行政面積のうち、山林が約66%、畑地が約15%など、宅地は3%
- 札幌・小樽からアクセス良。ワイン関連の移住者も微増。
- ニッカウヰスキーはあまりにも有名



1. 地域の現況

《余市町の雪の困り事①》

- 住民による雪処理が重労働に。
- 空き家問題→落雪が道路になだれ込む場合も。
- 限定的な雪捨て場→空地を町道除雪の雪捨て場として利用しているが、ゴミや砂利の混入の課題も。



【住宅の屋根】（左）落雪が窓やプロパンガスへ、（右）つららが成長し危険



【落雪の危険性】落雪の危険性を張り紙による注意喚起



【空き家】雪の重みによる建物の崩壊や落雪の危険性



【空地の利用】（左）空地を町道除雪の雪捨て場として利用、（右）未利用の空地

1. 地域の現況

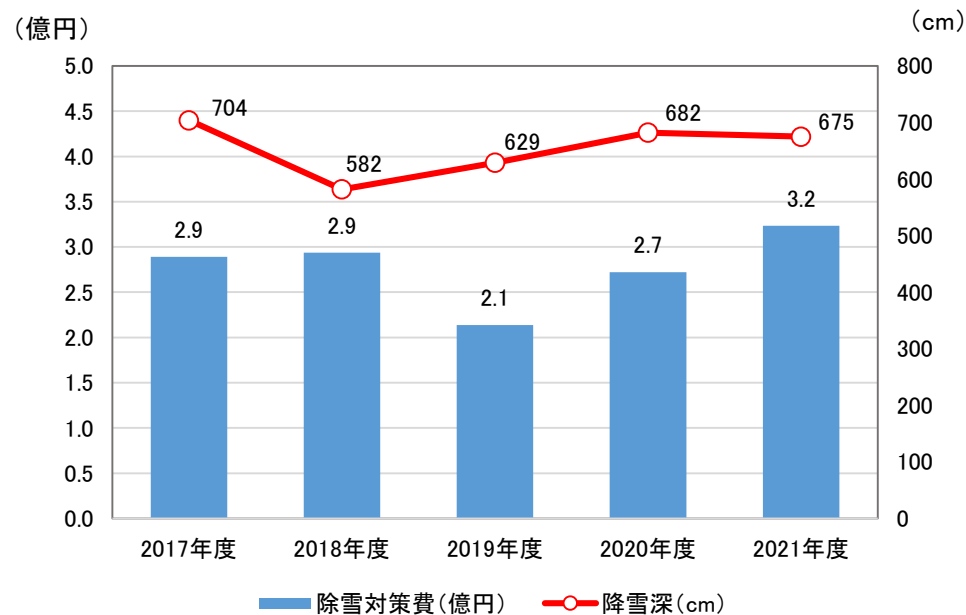
《余市町の雪の困り事②》

●道路除雪（業者からみた意見）

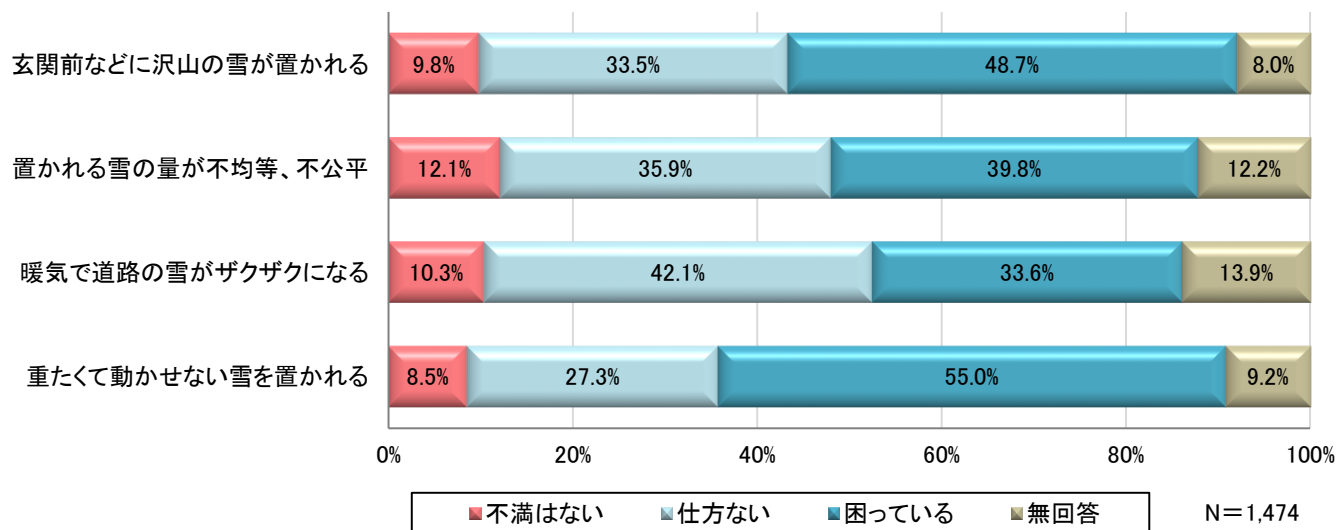
- 町道除雪の除雪オペレーターの担い手の高齢化、新たな担い手確保を懸念
- 最近では燃料単価の上昇等→業務単価を見直して欲しい。／除雪オペレーターの負担増

●道路除雪（住民からみた意見）

- 置き雪の処理に困る。置き雪の量に対する不公平感。
- 雪捨て場の不足
- 新規のオペレーターも多く、「除雪が下手、雑」という意見も。



除雪対策費の推移
出典：余市町調べ



日常の除雪や排雪に関する課題について
出典：町民アンケート

1. 地域の現況

《余市町の現行の除雪共助体制》

- 流・融雪溝（沿道住民＋「冬の暮らしシルバーサポート余市」（VSP団体：18名））
- 雪友会によるボランティア除雪（設立して50年。農業者の有志16名（高齢化率75%）。農業は冬も忙しくなってきたのでボラ除雪の負担増）
- その他、北海道電力や郵便局の局長会、高校生のボランティア活動（余市紅志高等学校、北星学園余市高等学校）などでも実施

流・融雪溝



片側
国道5号線
約1,650m、
町道5路線
420m

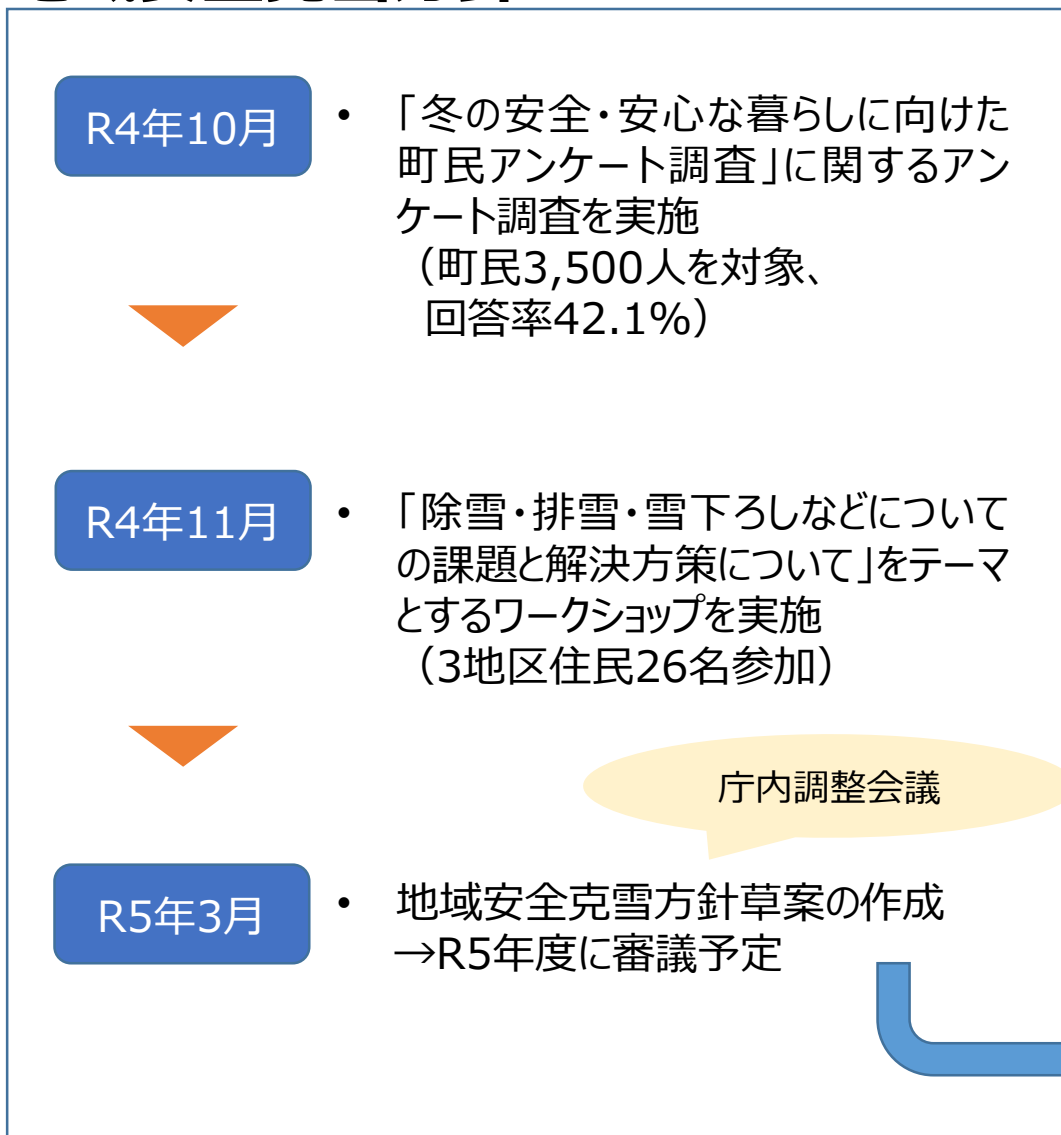


高齢者除雪サービス事業

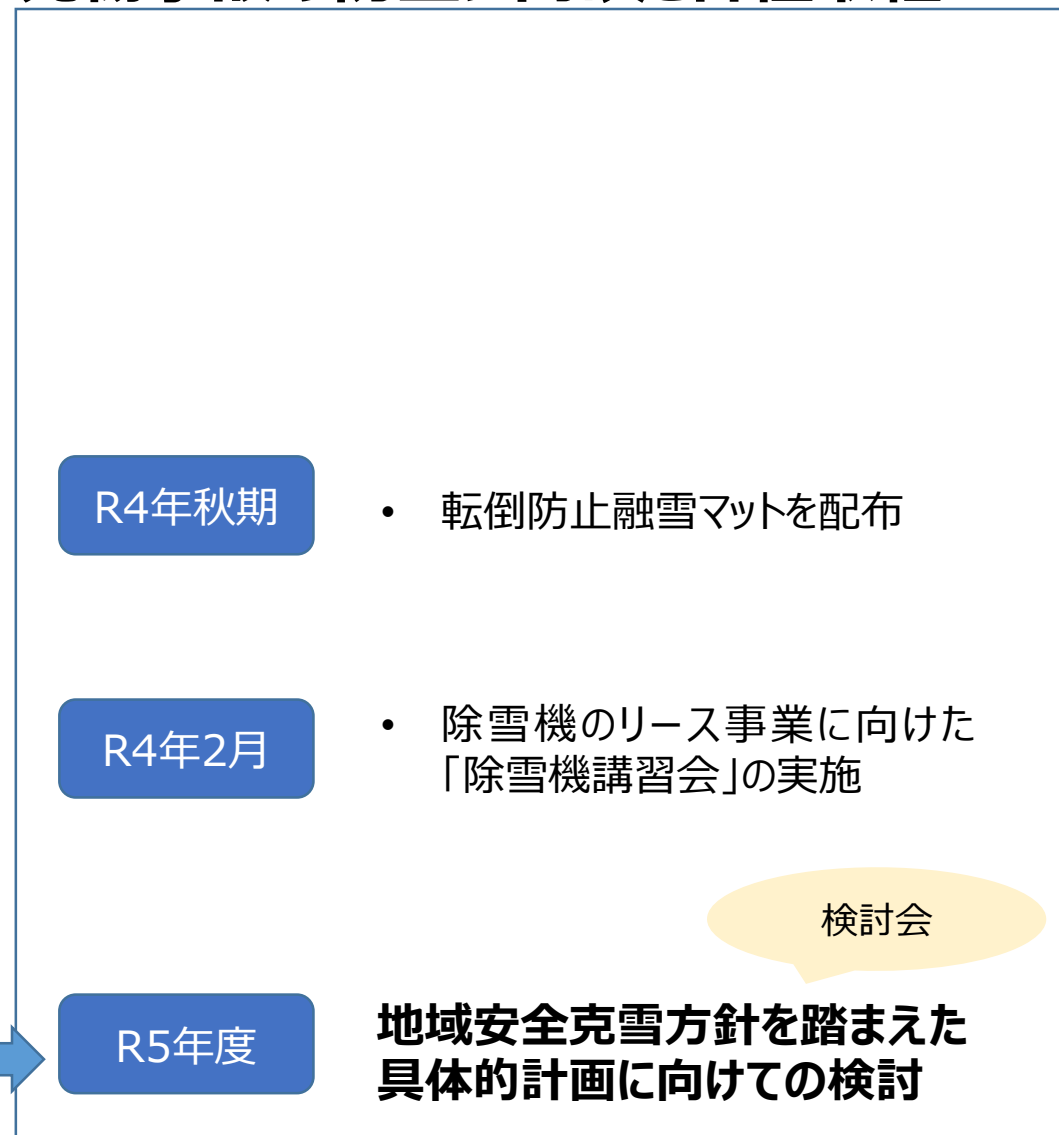
- 一人暮らしの高齢者や障がい者を対象
- 15cm以上の積雪時、玄関先から歩道までの1m程度の除雪のほか、屋根の除雪を行う。
- 公益社団法人余市町シルバー人材センターに委託し、シルバー人材の人力のみにより実施
- シルバー人材センターは、高齢化により人材確保が難しい現状
- 高齢者除雪サービス事業の一部を町内のボランティア団体に有償で委託

2. 豪雪地帯安全確保緊急対策交付金事業の進捗状況

◎ 地域安全克雪方針



◎ 死傷事故の防止に向けた各種取組

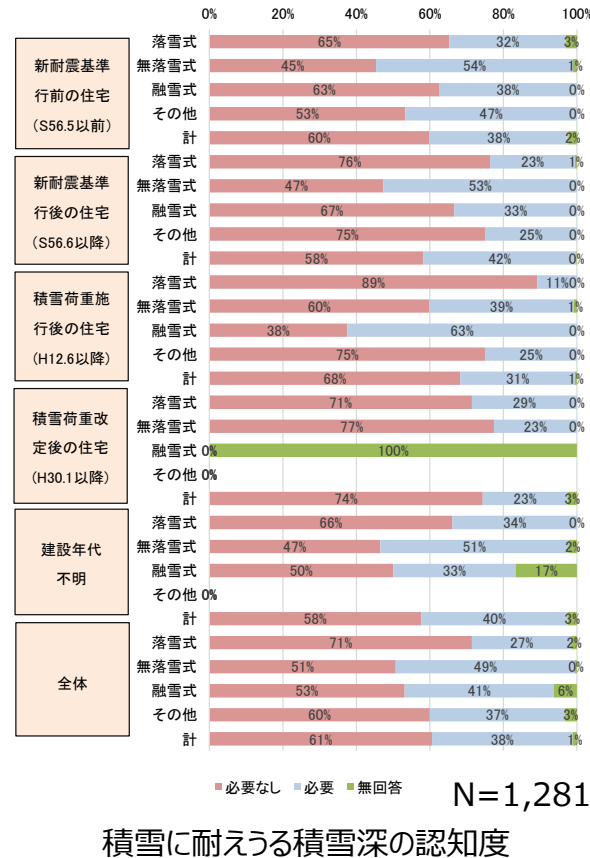
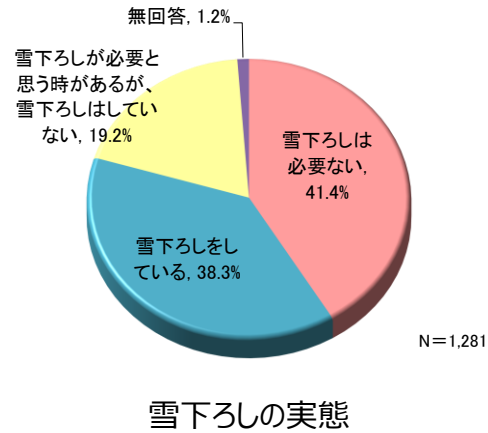


3. 地域安全克雪方針の策定に向けた具体的な調査手法

◎ 地域安全克雪方針

「冬の安全・安心な暮らしに向けた・町民アンケート調査」

- ①調査期間 2022年10月1日～10月14日
- ②調査方法
 - 余市町にお住いの世帯のうち3500世帯を無作為抽出
 - 郵送配布郵送回収（郵送資料にWEBによる回答方法追加）
- ③回収数及び回収率 1,474票、42.1%



町民ワークショップの実施

「除雪・排雪・雪下ろしなどについての課題と解決方策について」をテーマとして、その実現に向けて必要となる行動や取組について考えに意見交換

- 日時 令和4年11月24日（木）
- 場所 余市町中央公民館 3階 301・302会議室
- 参加者 町内会代表者、地域包括支援センター、民生委員の方
- 手法 雪処理の範囲を3区分し、区分ごとの困り事を抽象化した地図上で共有



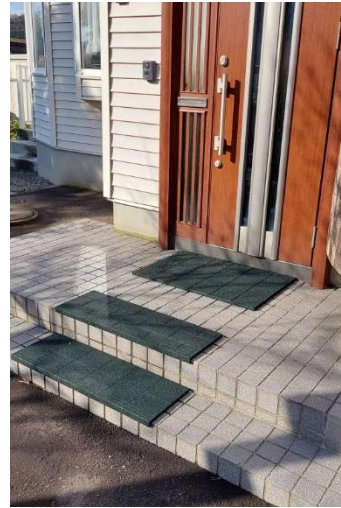
範囲	意見・要望
プライベート	<ul style="list-style-type: none"> 雪庇防止装置が欲しい 空家対策が必要 除雪ボランティアの不足 窓の冬囲いで家が暗くなってしまう 落雪しても道路に行かないなら、固い事を言わないで欲しい
セミパブリック	<ul style="list-style-type: none"> 通学路は公的な除雪をお願いしたい 流雪溝のふたがゆがんで開けづらい 機械で投雪はNG どこまで地域でやるか線引きして欲しい
パブリック	<ul style="list-style-type: none"> 除雪オペレーターの技術の講習が必要 除雪した後に道路の雪を置かれる

4. 豪雪地帯安全確保緊急対策交付金事業の概要

◎ 死傷事故の防止に向けた各種取組

転倒防止融雪マットを配布

- ・ 転倒防止融雪マットを配布しています。対象は70歳以上の非課税世帯、または障がい者手帳1級の方。上限2万円まで金額補助
- ・ 令和4年度は64世帯（金額補助89万円）の応募



除雪機のリース事業に向けた安「除雪機講習会」の実施

- ・ 区会やボランティア団体への除雪機・融雪機の貸出を行うこととし、除雪機を貸出するにあたり、除雪機の使用方法についての講習会を開催

- ・ 日 時 令和5年2月6日（月）午前11時から（30分程度）
- ・ 場 所 黒川会館前
- ・ 講師 株式会社やまびこ 西山氏
- ・ 使用機種 共立除雪機 KT1380



除雪機と一緒に無償で利用できる
搬送用の軽トラック



始動時のバッテリーへの負荷等、注意
事項について説明

5. 今後の取組、取組上の課題や困っていること

◆今後の取組と課題①～担い手不足の解消・組織づくり～

- 危険個所の把握
- 高齢独居世帯、片親・子育て世帯等、多様なハンディの情報把握（制度設計や登録制を視野）
- ボランティアの育成確保に向けた有効な取組
- 戸別有償除雪の情報把握と発信
- 空き地の雪捨て場として活用

◆今後の取組と課題②～啓発活動～

- 雪下ろしに関する正しい知識を住民に届ける（R5年度に専門家によるレクチャー）

◆今後の取組と課題③～事故ゼロに向けた取組

- 空き家に起因する危険防止対策の検討
- 流雪溝の効果的な運用方法の検討